

答 辞

寒さも和らぎ始め、春の訪れが感じられる今日、私たちは3年間積み重ねた様々な思い出と共に、この学び舎を卒業します。

先生方、在校生の皆さん、私達のために、この素晴らしい式典を開いてくださり、ありがとうございます。また、御来賓の皆様、保護者の皆様、今日、この式典に足を運んでくださり、心より御礼を申し上げます。

思い返せば、この3年間は本当にあつという間でした。クラスの仲間と過ごした何気ない日々も、今となっては、掛け替えのない思い出です。過ぎ去った日々が短く感じられるのは、毎日の学校生活がそれだけ充実していた証だと思っています。

3年前の4月、この場所で入学式を迎えました。その後間もなく、宿泊オリエンテーションが行われました。初めは見知らぬ者同士、本来の自分を出すことができませんでした。しかし、このオリエンテーションをきっかけに、まとまりと、中央高校生としての自覚が生まれました。そして、中央高校生としての洗礼を受けたのが中央祭でした。前夜祭のステージ発表の迫力に驚き、先輩方のパワーに衝撃を受けました。球技大会では、「俺たちはできる!」「絶対に勝つ!」などと自らを鼓舞し、戦いに望み、先輩方にゴロボロに敗れ、意気消沈したことが懐かしく思い出されます。先輩方の競技に打ち込む一生懸命な姿に心を奪われ、憧れさえ抱きました。

2年生になり、行事に一層積極的に取り組みました。この年は、野球部の甲子園出場と、ラグビー部の花園出場により、学校全体が沸き立ちました。全校生徒が一丸となりました。「チーム秋田中央」であることを肌で感じ、一心不乱に応援しました。これは、中央生だからこそ経験できたことです。貴重な体験として、これからの私の心の中に、いつまでも残っていくことでしょうか。

そして、私たちは3年生になりました。しかし、コロナウイルスの影響により、多くのものが無くなってしまいました。高校総体、甲子園、各種コンクール。全国レベルの力を持った仲間達の勇姿を見る機会が失われてしまいました。百周年記念行事。本来なら私たちが中央高校の顔として中央高校を世にアピールするはずでした。そして、中央祭。私たちが作る中央祭までも無くなってしまいました。クラス全員でステージに駆け上がり、ステージに穴が開くほどジャンプして大騒ぎしたかった。3年生の特権であるその機会には、永遠に失われてしまいました。本当に残念でした。ただ、全て無くなつた日々の中で、球技大会が開催されたことだけが、唯一の救いでした。仲間とチームワークを発揮して全力で競技に取り組みました。仲間をクラスの全員で応援しました。このコロナ禍の中、球技大会を開くことには様々な障害があつたことと思います。にもかかわらず、私たちのために開催に尽力してくださった先生方、後輩の皆さん、本当に感謝しています。御陰様で、大切な思い出をもう一つ増やすことができました。ありがとうございました。

高校生活で、いつも私たちに寄り添い、背中を押してくださいました先生方。毎日の授業だけでなく、私たちの進路に丁寧に対応してくださいました。先生方のおかげで、楽しくも規律ある高校生活を送ることができました。ありがとうございました。十八年間、私たちを一番近くで見守ってくれた家族。自分のことを一番思ってくれているのを知りながら、色々と心配をかけたこともありました。けれども、家族の愛情に包まれ、支えられ、ここまで来ることができました。ありがとうございました。これからも、よろしくお願ひします。そして、辛いことや悲しいこと、嬉しいことがあつたとき、いつも近くにいてくれた友人の皆さん。笑い合い、助け合い、時にはぶつかり合い、しかし、許し合った3年間は、生涯の宝物になりました。君たちがいてくれたからこそ、支え合い、高め合い、成長することができました。本当に幸せでした。ありがとう。これから進む道は、それぞれですが、支えてくださっ

た方々への感謝と、中央高校で学んだことを胸に、それぞれの道を歩んでいきます。そして、これからの中央高校を背負って行く在校生の皆さん。春からは、中央高校の次の百年がスタートします。それぞれの目標に向け力を重ね、次の百年の中央高校の躍進のための礎を築いて下さい。皆さんの活躍を期待しています。

今日を境に、私たちは、それぞれの夢に向かって別々の道を歩いて行きます。悩んだり苦しんだりした時は、中央高校での様々な経験と、これからも変わることのない友情を糧にして、歩んで行きます。

最後になりましたが、今までお世話になりました、校長先生を初めとする諸先生方、家族、友人、在校生の皆様改めて感謝すると共に、秋田中央高校の更なる発展を卒業生一同心よりお祈り申し上げ、卒業生代表の答辞とさせていただきます。

令和三年三月一日

卒業生代表 澤木 雄作